

いしかれん だより

第40号
2007. 2

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地
石川県こころの健康センター内
TEL(076)238-5761
FAX(076)238-5762

平成19年度 北信越ブロック家族会

精神保健福祉推進活動研修会を迎えて

石川県精神障害者家族会連合会

会長 梶 義 伸

と き 2007年 9 月20日(木)～21日(金)

テーマ 地域で 精神障害者が 安心して 暮らしていくために
～波の音をききながら 明日への希望を開きましょう～

本年度は5年に1回まわってくる当番県になります。

5年前(平成13年9月20日(木)～22日(土))、山代温泉ゆのくに天祥を会場として、2泊3日の行程で行われました。延人員530名の参加をいただき、研修会を盛り上げていただきました。

翌年の富山県より1泊2日の行程となり、今日に続いております。

従来、開催地は、宿泊場所の利便性、会場、分科会場が一緒の所を求められ、それが可能で保養もかねた大きな温泉ホテルが選ばれてきました。

石川県の歩みも、山中温泉(ほくりく荘)、粟津温泉(グランドホテル)、山代温泉(ゆのくに天祥)と、加賀温泉郷に片寄ってきた感じが致します。

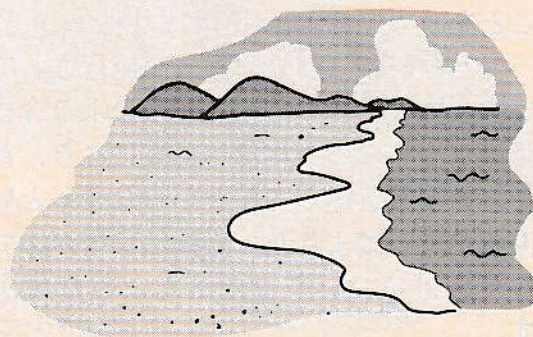
今年は、石川県を広くなじんでいただくためにも、発想を転換、「能登」を紹介したいと思います。

「七尾市和倉温泉」しかも、全国的に評価の高い「加賀屋」に思いきってのしほりました。

日程は、9月20日(木)～21日(金)でございます。

どうか、後世に残る思い出と、記録を残すために是非のご参加を期待しています。

どうか、家族会発展の記録と、私達の思い出を残すためにも、誘いあって、是非のご参加下さいますよう、お願い申し上げます。



第39回 全国精神障害者家族大会 長野大会をふりかえって

長野大会に参加して

山 岸 義 明

昨年11月9日・10日全家連全国大会～長野大会～に参加しました。

良い天気誘われるように長野入りしました。会場は“長野県県民文化会館”、周りに高い建物がなく落ち着ける場所でした。家族、当事者、関係職員等約2千人が集い、販売コーナーはいつもいっぱい歩くのも大変なくらい混雑していました。

今回は、「地域で輝いて生きるには」をテーマにして盛りだくさんの講演・分科会が繰り広げられました。百一歳の精神科医師・秋元先生の講演を楽しみにしていたのですが、体調不良で聴けませんでした。残念！

2日目の分科会で「医療・くすり・先進地アメリカに学ぶものは」では、アメリカより2人の当事者の方が見えられ、実状を聞かせていただきました。入院は最初は3日、次は1週間だったとのこと（日本なら1～3ヶ月それ以上）。その理由はアメリカには日本のような健康保健制度が無いためと解りました。そのため薬に関しても知識が豊富で、薬の効果・副作用・値段等をよく知っている、知らない大変なことになる、とのことでした。日本が良いのかアメリカが良いのか判りませんが、いずれにしてもその様な境遇になれば人間というのは変わるのだということに改めて考えさせられました。

今回は障害者自立支援法が施行されて初めての全国大会でした。支援法により今までの生活が変らざるを得ないようになり、参加者もいままでと違って何とかしなきゃという雰囲気は漂ってました。支援法は皆が1つに向けて行ける良い契機だったような気がします。

記念講演

大熊由紀子氏の提言から

一世直し7原則

- ① ぐちゃ泣き言では、世の中は変えられない。
- ② 説得力あるデータに基づいた提言を示す。
- ③ メディア、行政、政治家に仲間をつくる。
- ④ 提言は、ユーモアに包んで。
- ⑤ 従来の発想を、創造的にひっくり返す。
- ⑥ 市町村の競争心をあおる。
- ⑦ 名を捨てて実をとる。

※大熊由紀子氏は、元朝日新聞東京本社論説委員で数々の本を書き、現在は国際医療福祉大学院教授として、一貫して福祉と医療、現場と政策をつなぐ働きをなさっています。

長野大会で学んだこと

浦 田 洋

「補助金の目的外使用」の新聞報道から4年。全家連は「流用」の事実を認め、全役員が引責辞任した。一方、「着服等の不正はなかった」と云い、会員には寄付を求めて再生を目指してきた。しかし、寄付金が予期したように集まらなかったのは何故か？

また、どうして全家連は応益負担を柱とする「障害者自立支援法」の成立に手を貸したのか？

この答えが欲しくて、私は長野大会に参加したのだった。

入院中で欠席されたが、配られた「講演要旨」の中で秋元先生は「補助金の目的外使用」そのものが不正であり、それだけで全家連は解散すべきだったと指摘された。また、締め括りの講演で大谷先生は「全家連は多額の借金を抱え、障害者自立支援法に疑問をもてる状態にはなかった。」と述べられた。

そうか！何れも「流用」という悪事が招いた当然の結果だったんだ…。そのことに気付かせて貰えたのは収穫だったと思う。

大橋常務理事が家族会活動功労者表彰されたこと、秋元先生の代理＝藤井克徳氏の格調高い基調講演も印象に残った。

大会を準備して下さった長野県連のご努力に深く感謝したい。

単会活動報告

七尾更生園家族会便り
(七尾市中狭町112)

あらゆる機会に訴えて

偏見をなくそう!

七尾更生園家族会 会長 中田 勉

あけましておめでとうございます。

七尾更生園家族会です。2007年はおだやかな年明けで皆さんには晴れやかにお正月を過ごされたことと思います。

私達が石家連に参加して3年になります。

そこで今回、七尾更生園家族会を少し紹介したいと思います。更生園は救護施設なので精神障害者だけでなく、知的やアルコールその他の人も利用していて、総数99名が入所しています。また、入所者の75%は精神障害者でその他が25%の人たちで、入所者の平均年齢は65歳と高齢、80歳を越えている人もおられます。入所期間は16.5年と長く施設が我が家となってしまった人もいます。高齢化は入所者の親や兄弟も同じで、90歳に近い人もいます。

家族会の活動は役員会と総会くらいでその参加者も減少してきています。従って家族会単独の活動は難しく更生園の行事に参加するかたちで行っているのが現状です。

その中で最大行事は家族同伴の旅行で、平成17年には愛知万博を2泊3日で楽しんできました。しかし、参加者の減少は続いています。

原因の1つに社会の精神障害への偏見の目があると思います。それを気にしているのだと思います。入所時には家族は施設から面接や連絡等と家族会の説明を受けて帰っていますが、半年、1年と経つにつれ園から足が遠のき、まったく来なくなる家族もいます。もちろん年間に何回も面会に来る方もいます。

家族会はそれぞれの苦しみや悩みを話し合っ

て、少しでも心の荷物を軽くしたいと願っていますがなかなかそうはなりません。

できるだけ入所者から遠ざかりたいとの気持ちが強いようです。

私は以前家庭訪問をしました但那時に、「迷惑ですから来ないでください」「一切の連絡はいりません」「嫁の来手がなくなる」「周りに知れると困る」「嫁には内緒だから来るな」「今まで散々迷惑を掛けられた。もう、関わりたくない」等々の言葉を聞かされて、偏見のすごさを身をもって感じました。

また、亡くなられても「家の墓には入れたくない」「死んでまで面倒をみたくない」と言われ腹の立つ思いをしたこともあり、偏見を少しでも無くしたいと痛感しています。

七尾更生園では地域の方々に園の趣旨を理解してもらうため、地元行事に参加させて貰ったり、逆に園の催物に地元の方々を招待したりしています。小学校にも出向いて子供達と楽しい時間を送って、互いに理解しようとしています。このことを家族に分って貰えないのが残念です。

統合失調症等の精神的な病気は早期に発見し早期に治療できれば、症状が軽く済んだり、ときには治ることもあると聞いています。このような情報を社会にいろいろな機会を通じて訴えて、少しでも障害者を減らし、私達のような苦しみを味わう家族を皆さんと共になくしていきたいと思っています。

新年もちつき交流会Ⅱ写真Ⅱが開かれ、入所者九

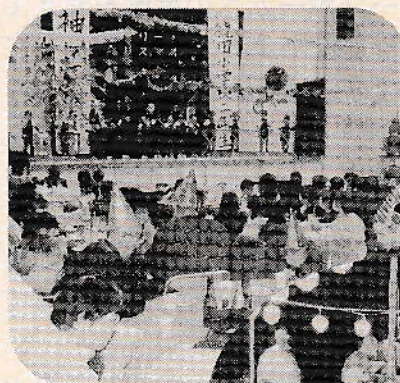


も披露された。児童による縦笛の合奏など

児童らきね振るう
七尾更生園
七尾市中狭町の救護施設
七尾更生園で十八日、

新年もちつき交流会

(北國新聞
H19. 1. 19日)



かわいい袖ヶ江保育園児の演奏と一緒にケーキもいただきまーす

盆踊り大会
たくさんの地域の方の参加があり、盛大に行われます



特集

会員の声

「泉の会」と私

泉の会 草 開 實

私が、「泉の会」の会長を引き受けてから、早11年となります。現在の家族会会員は、約40数名ほどです。月1回の例会を、金沢市の保健福祉センターで行っております。又、年2回の日帰り温泉にての例会も行っています。

例会では、この場所でしか話すことができない話をされます。いつも時間が足りないほどです。

同じ統合失調症でも、いろいろな方がおられます。人の話を聞くことも、大変勉強になります。又、家族の中には、入院されて約20年間も退院されていない方もおられ、その方のお話を聞くと、涙が出てきます。

さて、私の娘は、発病して約14年になります。その間、4回の入退院となっております。

海にもよく行きました。現在では、幻聴がとれません、1人でアパート生活となり、病院のデイケアに行っております。1週間に、2・3日帰っております。そんなに良くなっているとは思いますが、家に帰ってきますと、前よりも炊事や部屋の掃除をしてくれる時もあり、大変うれしく、今までのことを考えると喜んでおります。

今度は、グループホームへの挑戦を考えておりますが、少々心配もあります。親としては、いつも心配です。心配してもどうしようもないことです。

一番大切なことは、本人がこの世に生まれて、「生きていることがよかった」と感じてくれることだと思います。そのため、私も体の動く限り、娘と共に生きて行こうと思っております。

今後とも、家族会の方々、医療福祉スタッフ、行政の方々の支援を賜りながら、感謝の心を忘れずに、障害があっても安心して生きていかれることを願っております。

(平成19年9月20・21日、和倉温泉にて、北

信越ブロック研修会開催が予定されております。皆様方の力を結集して成功させましょう。)

「来し方と行く末」

くろゆり会 小 杉 修

昨年12月6日、こまつ育成会が事務局を担当され、小松市障害者自立支援協議会が設立され、私も出席させて戴きました。

幾つかの自治体には、その様なネットワークが有り活動されている事は聞いておりましたが、当地にも今、その動きが始まり大きな流れになって行きます様、念願して止みません。私の息子の事です、一昨年多くの方々の善意と熱意に支えられ、ネットワークの輪に入れて戴き民間企業に就職致しました。そこに至る迄の経過や失敗を述べてみたいと思います。発病後、少々安定期に入ってから、主治医の先生のお薦めで、社会福祉法人「なごみの郷」に入れて戴き、就労に向けて数多くの訓練と体験を受けさせて戴きました。そして5年前に就職準備の為、石川障害者職業センター、石川ワークトレーニング社に入れて戴き2ヶ月の過程を経て相談評価を受け、ハローワークに至りました。ここで決定的な失敗は、本人の希望により、いわゆるクローズのままにと云う事でした。ハローワークの指導官に、何を考えているんだと、お叱りを受け通常の求職を致しました。その間、2度程面接にまで至りましたが、就職には届きませんでした。有効求人倍率も低く、不況の最中と云う時代背景でもありました。

私も当人も次第に年をとって参ります。あせりと共に、家族会に入れて戴いた事で、オープンにと意識も変わって来ました。

一昨年の或る日に、私の一存で、一度お世話になった石川障害者職業センターに、相談電話を入れた処、大変親切に対応して戴き、早速ハローワークの指導官に面会の約束をとって戴きました。指定の日時に指導官にお目

にかかり就職の希望を述べ、幸い主治医の意見書でもゴーサインを戴き、手続きを終えました。その折、ジョブコーチの事を、お聞きした処、早速こまつ育成会に紹介して下さい、この足で直ぐに行きなさいとの事でお伺いしました。

こまつ育成会にて、所長及びジョブコーチを担当して下さい方にお目にかかり、就職希望を述べて参りました。

その翌日、早速連絡を戴き、心当たりの会社があるからとの由で、ハローワークの指導官、こまつ育成会のジョブコーチの方、なごみの郷の就労担当の方に、当人を交えたチームにて就職申し込みに出向いて下さり決定までに至ったのでした。

その後、ジョブコーチの尽力及び前記の方々に主治医の先生を交えたネットワークの元に、実習生、トライアル雇用と段階を踏み、適正や体力等を見極めながら、順次就労時間を延ばして行きました。その間、就労にかかわる助成金も適用して戴き、何か問題あれば相談して解決して戴き、一年有余経過しております。幸い会社にも充分ご理解戴き、

元気で勤めております。

この様に多くの方々のネットワークの元で、その熱意と善意を戴いた結果と、心から感謝致しております。

就職した後に思うことは、就職が治療のゴールではなく、主治医の先生の診療を受けながら、薬の服用を続け、病気と付き合いながら社会生活を営むことが必要であると云うことです。そしてその先にも、まだ超えなければならぬハードルが待っている様です。

昨年12月新聞紙上に、国連総会にて、初めての障害者権利条約の記事が出ておりました。

1. 障害者の移動を促進する為、建物や道路、交通機関における障害物の除去
2. 教育における機会平等の確保
3. 就職や昇進面での差別禁止

等が盛り込まれるそうです。何時の日か立法され批准され施行に至る事でしょう。

ここまでに至った先人達のご苦勞を忍ぶと共に、障害者の未来は決して暗くないと信じて生きて参り度いと思います。

平成18年度 行政と家族会の懇談会が開催されました

□平成18年11月16日(木) 午前10:00~12:00

□こころの健康センター会議室

□テーマ 「家族の思いを 語りあおう」

平成18年度は、県（行政）の方々に、直接家族の切実な気持ちを聞いてほしいとの思いで、次のような企画で開かれました。

- ・16単会の会長が、1人5分以内で発言
 - ・内容は、家族の悩み、今、困っていること、家族会としての問題、よいモデルなど
- ◇会場の設営 ・□の字型にし、各単会の代表が坐り、会員はその後には坐る
- ◇コーヒープレイクがあって、出席者は全員、ホッとする時間もありました。

コーヒの香りが残る後半の話し合いは、時間がまたたく間に流れました。

◇行政の方々に、家族の本当の思い、意見を聞いていただき、本当によかったと思いま

した。

◇又、行政の方々からも話があり、相互に意見交換しました。

◇今後の精神事業に、「少しでもとり入れていただければの思い」が強く、1人5分という時間の制約の中に思いがこめられていました。

◆懇談会の感想（後日、次のような感想がありました）

- ①今までは、県の話聞くばかりだったが、今年は家族の思いを聞いてもらい、丁寧な返事を返してもらい、良かったと思う。
- ②家族の率直な意見を、県も重く受け止めていただいた様子。
- ③ああいう会合は、1度は必要だったと思う。
- ④一般会員の参加をもっと広げて、フロアからの意見も聞くようにしたい。

お知らせ

おめでとうございます。

11月9日

第39回全国精神障害者家族大会 長野大会

全家連理事長表彰 受賞

ちよに会会長 大橋 昭子様

相談員養成研修会日程

日時：平成19年3月20日(火) 午前10時～午後3時

場所：石川県こころの健康センター 2階 研修室

内容：

- 10:00～11:30 講話「出会いと関係づくり」(仮題)
講師：石川県立看護大学 武山 雅志 先生
- 11:40～12:10 ビデオ視聴「ピアカウンセリングの実践」
- 13:30～15:00 講話「電話相談の心得」
講師：尾山台高校 浦田 肇 先生

地域で輝いて生きるために

全家連長野大会
大熊由紀子氏の講演から

ノーマライゼーションの育ての父 8つの原理 (ベクト・ニリエさん)

どんなに障害や病気が重くても、年をとっても、死が間近に迫っていても、ひとは、

- ①一日のふつうのリズムを味わう権利を保障される
- ②一週間のふつうのリズムを味わう権利を保障される
- ③一年のふつうのリズムを味わう権利を保障される
- ④一生のふつうの経験を味わう権利を保障される
- ⑤男女両性の世界で暮らす権利を保障される
- ⑥ふつうの居住水準で暮らす権利を保障される
- ⑦ふつうの経済水準を保障される
- ⑧自己決定と「尊厳」を尊重される

石家連への寄附のお願い

趣意書

平素より精神に障害のある人の福祉増進に、ご理解とご援助を頂いていることに深く感謝申し上げます。

私共は、家族同士の支え合い、病気の理解を深め、福祉の増進を図るため石川県精神障害者家族会連合会（石家連）を結成しております。

さて、平成19年度は石家連が北信越ブロック研修会を受け持つことになっております。この研修会は、精神に障害のある人が地域でその人らしく暮らしていくために、また、安心して次の世代に引き継いでいくためにはどのような支援が必要か等、ブロック各地域での実践活動を知り、相互の交流を図りながら研鑽を積むことを目的として開催いたします。

また、この研修会の開催地の方々には、心の健康について理解を深めて頂けるよい機会になることを願っております。

つきましては、前回までの研修会は全国精神障害者家族会連合会（全家連）から支給される助成金で運営して参りましたが、今回からは全家連からの助成は望めませんので、この会の運営のための資金作りから始めなければなりません。

このような実情をお察しくださしまして、皆様方のご支援を賜りたいと存じます。頂きました浄財は平成19年9月和倉温泉で開催を予定しております、北信越ブロック研修会の経費に当てさせて頂きます。

どうか以上の趣旨にご賛同くださしまして、ご支援を賜りますよう、お願いする次第でございます。

平成19年2月吉日

石川県精神障害者家族会連合会 会長 梶 義 伸
役員 一 同

編集後記

- ・9月に和倉温泉で開かれる北信越ブロック研修会の準備が本格的にはじまろうとしています。役員のみならず、会員みんなの底力を発揮して、この大会が大成功になるようにがんばりましょう。

(紺谷)

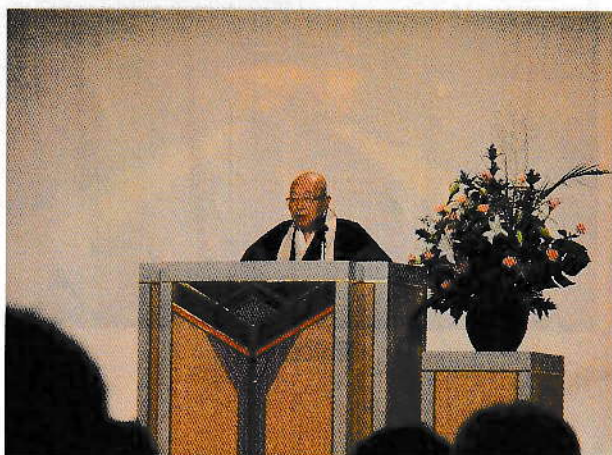
- ・山岸さんが、全家連長野大会の感想に、「周りに高い建物がなく、落ち着ける場所」とあります。長野の紅葉の山は安らぎを与えてくれました。

- ・今年は海辺です。何も話さなかった息子と一緒にいった海辺で、寄せては返す波に、ふしぎと心が安らぐのを覚えました。

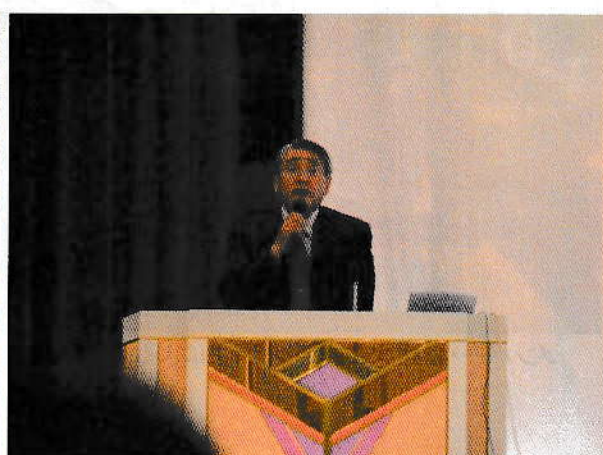
(木村)



開 会 式



記念講演「生かされていることへの感謝」
御誕生寺住職 板橋興宗氏



基調講演「今日の精神科医療と地域生活支援」
日本精神科病院協会常務理事 松原三郎氏



第一分科会「活き活き活動する家族会目指して」



第二分科会「地域生活支援事業の実態と課題」



第三分科会「地域で安心して暮らすために」



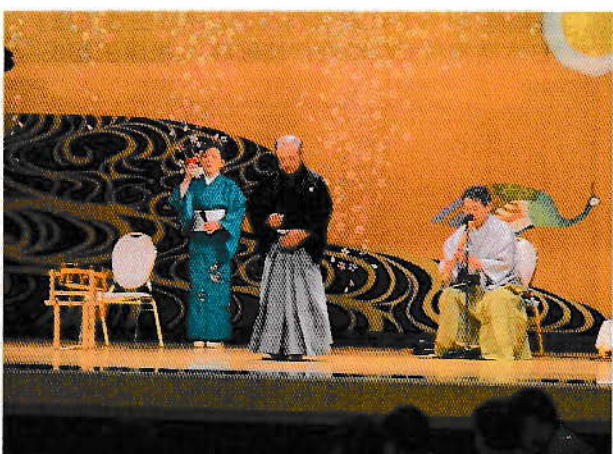
第四分科会「仲間同士楽しく語り合おう」



メンバー・看護大生ボランティアによる会場案内



懇親会(1)



懇親会(2)



懇親会(3)